

先日は、6月のてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回のとがたんは、7月13日(土)で、「てがたんしりとり」がテーマです。ぜひご参加ください。

* 市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見は、7月7日(日)の9:30からです。

6月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→博物館駐車場→手賀沼遊歩道→けやき広場→藤棚→旧水生植物園→けやき広場→親水広場でまとめ&解散
- 観察日時と天気：2019年6月8日(土) 10:00～12:00 曇り
- 参加人数：22人(大人16人、大学生4人、小学生以下2人)
- 市民スタッフ：4人(木村稔、伊東茂子、小泉伸夫、湯瀬一栄)
- 鳥博友の会ボランティア：3人(伴野茂樹、北村章子、古澤紀元)
- 鳥博 職員：1人(岩本二郎)

観察した生き物の記録(下見を含む)

【鳥類】キジ科：キジ/カモ科：カルガモ/カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ/クイナ科：クイナ、オオバン/タカ科：トビ*/カワセミ科：カワセミ*/カッコウ科：ホトトギス*/モズ科：モズ*/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス*/シジュウカラ科：シジュウカラ/ヒバリ科：ヒバリ*/ツバメ科：ツバメ/ウグイス科：ウグイス/メジロ科：メジロ*/ヨシキリ科：オオヨシキリ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ/家禽および外来種：コブハクチョウ、ドバト

【爬虫類】カナヘビ科：ニホンカナヘビ*

【両生類】アマガエル科：ニホンアマガエル*/アカガエル科：トウキョウダルマガエル*、ウシガエル/ヒキガエル科：アズマヒキガエル*

【昆虫】トンボ目：アオモンイトトンボ*、コシアキトンボ、/バッタ目：コバネイナゴ(幼)*、ショウリョウバッタ(幼)*、ヒシバッタ*、キンヒバリ、ヒメギス(幼)*、ウスイロササキリ(幼)*、/カマキリ目：チョウセンカマキリ/カメムシ目：コミズムシ*、アメンボ*/コウチュウ目：ナナホシテントウ*、/チョウ目：カノコガ、ジャコウアゲハ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、ルリシジミ*、ベニシジミ、ナミアゲハ*、アオスジアゲハ*、コミスジ*、サトキマダラヒカゲ*

【クモ】ササグモ科：ササグモ*/アシナガグモ科：アシナガグモ/コガネグモ科：ナカムラオニグモ、コガネグモ、ゴミグモ*/コマチグモ科：ヤマトコマチグモ

【植物】ドクダミ科：ドクダミ/ラン科：ネジバナ/アヤメ科：キショウブ、ニワゼキショウ/ヒガンバナ科：ノビル/ツユクサ科：ツユクサ、ノハカタカラクサ/イグサ科：クサイ、スズメノヤリ/イネ科：チガヤ、ネズミムギ、スズメノカタビラ/ケシ科：ナガミヒナゲシ/キンポウゲ科：ケキツネノボタン、キツネノボタン/ベンケイソウ科：コモチマンネングサ/フウロソウ科：アメリカフウロ/アカバナ科：メマツヨイグサ、ユウゲショウ/マメ科：コメツブツメクサ、シロツメクサ/ブナ科：マテバシイ/カタバミ科：カタバミ、アカカタバミ、ムラサキカタバミ、オッタチカタバミ/トウダイグサ科：アカメガシワ/アブラナ科：マメグンバイナズナ、イヌガラシ/タデ科：アレチギシギシ、ギシギシ/ナデシコ科：ウシハコベ、コハコベ/ヒユ科：シロザ/モクセイ科：イボタノキ/オオバコ科：オオバコ、ケムシクサ、オオイヌノフグリ/シソ科：ホトケノザ/サギゴケ科：サギゴケ、トキワハゼ/ハマウツボ科：セイヨウヒキヨモギ、ヤセウツボ/キク科：ヒメジョオン、ハルジョオン、ハキダメギク、ウラジロチチコグサ、ブタナ、オオジシバリ、ハハコグサ、ノゲシ、セイヨウタンポポ、オニタビラコ/スイカズラ科：スイカズラ

(注) *印は6月2日の下見の時にのみ確認した種

6月に観察した生き物の記録

今回のてがたんのテーマは「歌で楽しむ自然観察」で、唱歌「夏は来ぬ」に登場する自然について紹介しました。歌詞の意味を確認し、ホトトギスとヒクイナのさえずりの音源を聴いた後、ヨシ原沿いに水辺を歩いたところ、オオヨシキリやホオジロがさえずる様子や、カワウが羽を乾かす姿、そしてコブハクチョウがヒナを連れて陸上を歩くところなどをよく観察することができました。



木村 稔 さん
今月の案内人



①大きく口を開けてさえずるオオヨシキリ



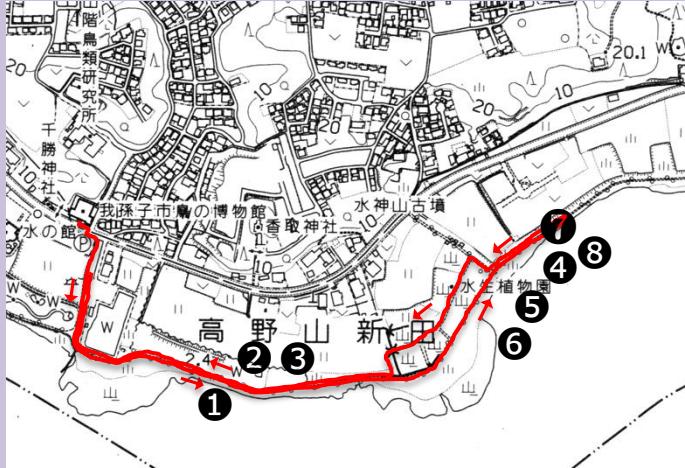
②ホトトギスが托卵する相手、ウグイス（下見にて）



③てっぺんでさえずるホオジロ



④カイツブリの親子が見られました



歩いたルートと観察した生き物



⑤羽を乾かすカワウ



⑥アオサギの飛び去る姿も見られました



⑦てがたん参加者の列の真ん中を横切るコブハクチョウ



⑧クイナ科で唯一、姿を見られたオオバン

今月の鳥 ヒクイナ ツル目クイナ科

ホトトギスとともに「夏は来ぬ」の歌詞に登場します。「水鶏鳴き」と歌詞にあるように、キョツ、キョツ、キョツキョツキョツキョキョ……と初めは遅く次第にテンポの速くなる、特徴的な声で鳴きます。クイナ科は、手賀沼には4種が生息し、ヒクイナはその中で最も全長が小さい鳥です。東南アジアと東アジアに分布し、北日本では夏鳥、西日本では留鳥になっています。平地から低山にある沼や水田などの湿地に生息し、餌は水中の昆虫、貝類、エビ類、小魚などの小動物を捕食する他、草本の種子も採食します。繁殖期は4～8月頃で、ヨシ原などの草の茂みの中にヨシやススキの枯れ葉を使い、皿状の巣を作って、5～9個産卵します。近年、個体数は減少してきており、環境省レッドリスト2019では準絶滅危惧種、千葉県レッドリスト2019ではA最重要保護動物に指定されています。



名前にあるとおり、目、喉・胸・腹および脚が赤い（緋色）のが特徴です。

てがたんにご参加ありがとうございました。次回もお待ちしております。